



平成 25 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社 SmartEbook.com
代 表 者 名 代表取締役 安嶋 幸直
(JASDAQ・コード 2330)
問 合 せ 先 取締役財務部長 飯田 潔
電 話 0 9 2 - 2 6 3 - 5 9 1 1

平成24年12月期連結業績と前年実績との差異及び
特別損失の計上並びに配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成24年12月期（平成24年1月1日～平成24年12月31日）の当社連結業績につきまして、前年実績と比較して差異が生じることが予想されますので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 12 月 期（平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日）の連結業績と前年実績との差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
平成 23 年 12 月 期 実績 (A)	1,211	△1,156	△1,107	△1,731	円 銭 △787.31
平成 24 年 12 月 期 実績 (B)	450	△1,006	△922	△1,017	△463.86
増減額 (B-A)	△761	149	185	713	—
増減率 (%)	△62.9%				—

2. 差異が生じた理由

グローバルでの流通チャネルの確保のため、ローカルエリアの言語が公用語で人口の多いエリアへのアプローチを進めながら、独占チャネルの拡大と世界の電子書籍カタログの確保を行いました。特に、中国エリアにおきましてはチャネルの拡大とソーシャルリーディングを使ったユーザーの獲得ができました。しかしながら、日本エリアでの収益確保が伸び悩んだほか、ローカルエリア向けの課金システム開発が遅れ、期中において有料化率向上に結びつけることができなかったことなどにより、売上高は、前年実績比 761 百万円減少の 450 百万円となりました。

損益につきましては、原価及び販売管理費の削減に継続して努めましたが、売上高の減少に加え、各スマートフォンの OS パージョンアップに伴い、自社ビューワー及びアプリケーションの開発を促進したことにより、旧バ

バージョン資産の除却や評価減が発生したこと、ソーシャルリーディングのマーケティングを行ったこと等により、損失計上となりました。営業損失は、前年実績比 149 百万円減少の 1,006 百万円となりました。当期純損失につきましては、減損損失 65 百万円、固定資産除却損 46 百万円を特別損失に計上したことから、前年実績比 713 万円減少の 1,017 百万円となりました。

3. 特別損失の計上について

BtoB 向けプラットフォームの開発に注力しており、各スマートフォンの OS バージョンアップに伴い、自社ビューワー及びアプリケーションの開発を促進したことにより、旧バージョンの自社ビューワー及びアプリケーションの資産の除却損及び評価損を計上いたします。

減損損失 65 百万円
固定資産除却損 46 百万円

4. 平成 24 年 12 月配当予想の修正

(1) 修正の内容

	期末配当	年間配当
前回予想（平成 24 年 11 月 13 日）	－円	－円
今回修正予想	0.00 円	0.00 円
（ご参考）平成 23 年 12 月期実績	0.00 円	0.00 円

(2) 修正の理由

当社は株主還元を経営の重要課題と認識しておりますが、当期業績を鑑み誠に遺憾ではありますが、期末配当予想を無配に修正させていただきます。

以上